

# 市町村統計事務検閲

## 川崎統計課長の講評

本縣では左記日割場所において縣統計課員出張、水戸市及び各郡下町村の統計事務検閲を行ひ、その郡の検閲終了の翌日には川崎統計課長により検閲の成績講評あり、大いに緊張させた。(口繪参照)

(検閲月日) (集合場町)

△水戸市 三月七日 茨城縣廳

△東茨城 三月五日 茨城縣廳

△水戸市 三月七日 茨城縣廳

△東茨城 三月五日 茨城縣廳

石塚、小松、西郷、坪、岩船、澤山、伊勢畑、山根、飯富、渡里、中妻、下中妻、大貫

三月七日 小川町役場

上野合、白河、橋、小川、竹原、堅倉、川根

三月九日 茨城縣廳

水戸市、東茨城郡各町村検閲成績講評各

市町村全部參集ノコト

平潟、關本、高岡

三月六日 同

多賀郡各町村検閲成績講評各町村全部參集ノコト

△鹿島 三月三日 元自治會館

夏海、大谷、沼前、巴、徳宿、諏訪、鉾田、新宮、上島、白鳥

三月四日 鹿島町役場

大同、中野、波野、豊郷、豊津、鹿島、高松、息栖、輕野、若松、矢田部、波崎

三月五日 同

鹿島郡各町村検閲成績講評各町村全部參集ノコト

△行方 三月二日 玉造町役場

手賀、玉造、玉川、現原、立花、秋津、武田、要

三月三日 麻生町役場

麻生、香澄、八代、潮來、大生原、太田、大和津澄、延方、小高、行方、津知

三月四日 行方郡農會

行方郡各町村検閲成績講評各町村全部參集ノコト

△稻敷

二月二十五日 龍ヶ崎町役場

四八

松、石神、額田、神崎

三月二日 同

菅谷、五臺、柳河、國田、戸多、木崎、芳野、瓜連、大場、長倉、小瀬

三月三日 同

那珂郡各町村検閲成績講評各町村全部參集ノコト

△久慈 三月七日 元自治會館

機初、世矢、坂本、東小澤、西小澤、幸久、佐竹、那戸、久米、金郷、世喜、金砂

三月九日 同

天下野、高倉、梁和田、山田、譽田、佐都、河内、中里、賀美、小里、太田、久慈

三月十日 同

生瀬、宮川、黒澤、依上、佐原、大子、袋田、上小川、下小川、諸富野

三月十一日 同

久慈郡各町村検閲成績講評各町村全部參集ノコト

△多賀 三月四日 元自治會館

坂上、國分、河原子、鮎川、助川、日立、日高、豊浦、櫛形、黒前

三月五日 同

松原、松岡、南中郷、磯原、華川、關南、大津

三月九日 谷田部公會堂

旭、上郷、谷田部、小張、板橋、久賀、三島谷、井田、眞瀨、豊、十和

三月十日 同

鳥名、鹿島、福岡、葛城、小野川、長崎、大穗、田水山、吉沼、菅岡

三月十一日 同

作岡、筑波、田井、北條、小田、高道祖

三月十二日 同

筑波郡各町村検閲成績講評各町村全部參集ノコト

△眞壁 三月四日 元自治會館

古里、谷貝、紫尾、眞壁、樺穂、關本、雨引、大國、小栗、上妻

三月五日 同

下妻、大寶、勝波、江、黒子、村田、嘉田生崎、鳥羽、上野、大、長讚

三月六日 同

竹島、養蠶、河間、中、五所、伊讚、太田、河内、川西、下館、新治

三月七日 同

眞壁郡各町村検閲成績講評各町村全部參集ノコト

△結城 三月十日 結城町役場

四九

絹川、江川、上山川、山川、中結城、下結城  
 名崎、西豊田、結城  
 三月十一日 元自治會館  
 安齋、大形、岡田、飯沼、豊田、菅原、大花羽  
 豊加美、五箇、三妻  
 三月十二日 同  
 總上、宗道、蠶飼、玉、石下、大生、水海道、  
 豊岡

三月十三日 同  
 結城郡各町村檢閲成績講評各町村全部

集ノコト  
 △猿島 三月十一日 古河町役場  
 古河、新郷、勝鹿、櫻井、香取、五霞、八俣、  
 岡郷  
 三月十二日 元自治會館  
 香掛、弓馬田、飯島、神大貨、岩井、七郷、中  
 川、長須、七重、逆井山  
 三月十三日 同  
 靜、長田、幸島、境、猿島、森戸、生子菅  
 三月十四日 同

猿島郡各町村檢閲成績講評各町村全部  
 集ノコト  
 △北相馬 二月二十五日 元自治會館  
 菅生、坂手、内守谷、小絹、大澤、大野、高野  
 守谷、高井、稻戸井、山王、寺原  
 二月二十六日 同  
 取手、井野、小文間、六郷、相馬、高須、川原  
 代、北文間、文、布川、文間、東文間  
 二月二十七日 同  
 北相馬郡各町村檢閲成績講評各町村全部  
 參集ノコト

寄贈圖書

大原社會問題研究所  
 日本勞働年鑑  
 昭和九年宮崎縣統計書  
 日向の展望  
 昭和十年十一月賃銀統計月報  
 一月號大原社會問題研究所誌  
 大原社會問題研究所  
 第五十四回日本帝國統計年鑑  
 昭和九年人口動態統計  
 昭和八年沖繩縣統計書第三編  
 いしずる(一月號)  
 昭和十年國勢調査附帶調査速報  
 昭和十年十二月賃銀統計月報  
 昭和九年本邦鐵業ノ趨勢

樺太廳調査課  
 昭和九年樺太廳統計書  
 昭和八年樺太廳統計書第一編  
 統計(一月號)  
 昭和九年通信統計要覽  
 東京株式取引所統計月報  
 昭和十年國勢調査速報  
 朝鮮國勢調査速報  
 北海道統計(一月號)  
 北海道統計協會  
 山口縣統計書  
 日本都市年鑑  
 統計時報  
 統計界(一月號)  
 統計上より見たる山口縣の地位  
 道勢一班  
 黃海道々勢一班



各地統計雜信

調査員諸君  
 何なりと奮  
 つて御通信  
 を願ひます

鹿島支部役員異動

統計協會鹿島支部では左の通支部長及  
 副支部長の異動があつた。  
 □支部長小澤清藏氏二月五日退職  
 □副支部長鬼澤信一氏二月十二日退  
 職  
 □新支部長に諏訪村助役酒井守衛氏  
 □副支部長に輕野村助役山本政信氏  
 が就任、  
 尙支部事務所は三月一日より諏訪村役  
 場へ移轉した。

東茨城郡支部總會

東茨城郡支部にては昭和十年度春季總

會を二月二十八日全郡町村長會事務所  
 樓上に於て開催、午前十一時、江橋幹  
 事支部長代理として開會の挨拶を述べ  
 昭和十一年度全支部の歳入出豫算の議  
 決をなし前日より持越しの第一支會及  
 第二支會の議案について夫々論議をな  
 し次いで縣の提案事項につき吉見屬よ  
 り説明質疑應答を重ね午後二時終會し  
 た。當日の出席者は横須賀上大野村助  
 役外二十六名である。

- 第一 支會提案  
 農林統計作付反別調査票改正の件  
 米生産統計調査補助表に關する件  
 第二 支會提案  
 麥報告期日七月十五日限を七月末日限に  
 改正せられたきこと

町村統計主任異動(上は新任)

- 昭和十一年一月一日 行方郡小高村  
 高田 忠次(前川太治郎)  
 一月四日 新治郡林村  
 皆川源次郎(小松崎雅一)  
 全 新治郡園部村  
 眞家 善作(大槻五郎)  
 一月六日(新治郡瓦會村)  
 鈴木 貫一(叱氣新一郎)  
 一月十二日 結城郡蠶飼村  
 鈴木 敬三(須藤孫次郎)  
 一月十三日 鹿島郡巴村  
 重藤 正(新堀慶助)  
 一月十四日 鹿島郡夏海村  
 今泉 政男(關龍四郎)  
 全 筑波郡眞瀨村  
 山田 正二(宇津野竹雄)  
 一月十五日 那珂郡長合村  
 古田土勝男(大森一之)  
 全 水戸市  
 幾浦 武男(一木誠)  
 一月二十二日 行方郡延方村

### 多賀支那事務研究会

多賀郡支部では一月二十二日松原町役場に於て統計事務研究会を開催した。午前十時、會長缺員の爲瀧副會長開辭を述べ、協會より表彰せらるべき表彰者の詮衡に就ては、南北各部より一名宛とし、各部にて決定の上支部長より内申することに一決、次に諸表上の研究を遂げた、當日は縣より成瀬屬出席して縣提出の諸注意事項に付説明し質疑に答へ午後二時閉會した。

出席者は瀧副會長鈴木部會顧問(河原子町助役) 外各町村主任書記十九名である。

### 筑波郡中部研究会

筑波郡中部統計事務研究会では一月十五日同郡島名村役場に於て定例研究会を開き縣統計課より同郡擔當の岡崎主事補が臨席した、午前九時四十分開會



### 新宿御苑拜觀

昨秋行はれた國勢調査に従事したる國勢調査員に對し、宮内省より新宿御苑の拜觀をさしゆるされたが、その内拜觀したるは水戸市の四十五名を筆頭に左の如くである。

市町村名	拜觀月日	拜觀人員
○水戸市	十二月九日	四五
○東茨城郡		
上野村	十二月二十日	一七
大場村	二月四日	一七
石岡村	二月一日	一一
緑岡村	一月十八日	二二
長岡村	十二月十二日	一九
上野村	十二月十八日	二三
西郷村	十二月九日	二二
西郷村	十二月九日	二五
大貫町	一月二十八日	一七
○西茨城郡	十一月二十六日	二七
岩間町	十二月九日	二七
北池田村	十二月十八日	二三
○那珂郡	十二月九日	一九
湊町	一月二十八日	三〇

直江中部會長の挨拶に次ぎ縣提出事項に就き岡崎主事補より詳細説明の後質疑應答を爲し午後二時三十分閉會せり出席者左の如し

- (旭村)直江中部會長、佐々木書記、(島名村)高谷書記、宮本書記、(葛城村)中島書記、(谷田部町)富澤書記、(福岡村)飯泉書記、(上郷村)石濱書記、(眞瀬村)山田書記

### 消息

各種の統計資料調査の爲來應者左の如し  
本縣師範學校教諭篠崎綾氏、本縣女子師範學校教諭伊藤昌治氏(二月廿八日)

統計事務打合の爲來應者左の如し

- 鹿島郡諏訪村助役酒井守衛氏(二月十七日)
- 那珂郡前渡村書記黒澤關之介氏(二月十八日)
- 多賀郡結川村書記黒澤嘉惠氏(二月二十五日)

愛知縣屬田中胤男氏 本縣統計事務視察のため三月六日來應

○久慈郡	佐竹村	二月四日	一七
○久慈郡	金砂村	二月三日	一七
○久慈郡	久慈村	二月十八日	二〇
○久慈郡	久慈村	二月十八日	二五
○久慈郡	久慈村	二月九日	三三
○多賀郡	河原村	十二月十二日	一九
○多賀郡	結川村	二月四日	二二
○多賀郡	結川村	二月一日	二一
○鹿島郡	大谷村	十二月三日	一八
○鹿島郡	沼前村	十二月十八日	二五
○鹿島郡	諏訪村	十二月九日	二四
○鹿島郡	鉢野村	二月九日	二二
○鹿島郡	鉢野村	二月十五日	一七
○鹿島郡	鉢野村	二月十五日	一七
○鹿島郡	鉢野村	十二月五日	二三
○行方郡	香澄村	十二月九日	二七
○行方郡	津知村	一月十八日	一一
○行方郡	武田村	十二月十二日	一一
○行方郡	秋津村	十二月十八日	二一
○行方郡	小高村	十二月二十日	三五
○行方郡	手賀村	十二月十八日	一〇

### 人口統計

- 松崎 美助 (草野頼信)
- 學事統計
- 小松崎好次 (小林輝亮)
- 一月三十日 新治郡美並村
- 松澤 乾 (高倉義孝)
- 二月五日 那珂郡神崎村
- 川又勇之助 (福地實)

### 統計調査員異動 (上は新任)

- 昭和十一年一月九日 鹿島郡鉢田町
- 大川 吉藏 (笹目安五郎)
- 一月十日 行方郡八代村
- 土子 行雄 (茂木吉五郎)
- 一月十三日 久慈郡佐都村
- 大津 弘 (後藤辰之介)
- 一月十四日 那珂郡野口村
- 軍司 正雄 (軍司馬太郎)
- 君島 多守 (西村勝太郎)
- 一月十五日 行方郡大生原村
- 大川茂衛門 (飯島博)
- 一月十八日 那珂郡藤郷村
- 薄井 正 (薄井武)

- 全 一月二十一日 東茨城郡渡里村
- 根本與三郎 (寺門金太郎)
- 根本 正造 (瑞金太郎)
- 矢須吉次郎 (笠野幸太郎)
- 小園江卯之吉(小園井湖次郎)
- 寺門 正城 (川崎新之介)
- 須能 新 (安藤米造)
- 全 一月二十三日 多賀郡國分村
- 林 義一 (鴨志田實)
- 全 一月二十五日 稻敷郡金江津村
- 本橋 本司 (山口兼介)
- 全 一月二十六日 北相馬郡北文間村
- 宮久保勇太郎(平野平次)
- 高島 政雄 (高島久一郎)
- 全 一月三十一日 筑波郡大穂村
- 沖山 勇助 (伊勢崎三郎)
- 全 二月十日 那珂郡神崎村
- 山崎 信義 (川又勇之助)
- 加藤 倭文 (坪千一)
- 阿部 力 (齋藤亮一郎)
- 全 二月十二日 新治郡山ノ莊村

○稻敷郡	君賀村	十二月十二日	一七
	沼里村	十二月十二日	一六
	木原村	十一月二十六日	二三
	舟原村	十二月九日	二二
	阿見村	十二月十八日	二二
	朝日村	十二月三日	一九
	岡田村	十二月十八日	二〇
	古崎村	十二月九日	一八
	浮島村	二月二十四日	一七
	大宮村	十二月十八日	一六
	十島村	十二月十八日	一八
○新治郡	上津村	十二月十八日	一九
	下津村	十二月二十三日	二〇
	牛波村	二月四日	二〇
	小幡村	一月二十八日	二七
	小治村	一月二十八日	二〇
	新治村	十二月十八日	一一

○筑波郡	斗利出村	十一月二十六日	一二
	山莊村	十二月三日	一七
	榮重村	十二月三日	二六
	中家村	十一月二十八日	二九
	東浦町	十二月五日	二六
	土浦町	一月十五日	四二
○眞壁郡	小張村	十二月五日	一八
	久賀村	十二月十八日	一五
	三島村	十二月九日	二二
	鹿島村	十二月九日	一六
	田井村	十二月九日	一七
	小野川村	一月十五日	二四
	五所村	十二月二十日	二〇
	大田村	一月二十五日	二〇
	大寶村	二月一日	二二
	上野村	十二月九日	一五
	長讚村	十二月五日	二五

○結城郡	古里村	二月二十四日	一四
	紫尾村	二月十二日	一一
	雨引村	二月十五日	一一
	小栗村	二月四日	一八
○北相馬郡	上小川村	十二月十八日	一七
	大花羽村	十二月十八日	一八
	菅原村	一月二十五日	一九
	豊岡村	十二月九日	一八
	豊加美村	十二月九日	一八
	宗道村	十二月五日	一三
	石下町	十二月三日	一〇
	大生村	十一月二十六日	一六
○猿島郡	古河町	十二月九日	二六
	中川町	十二月九日	二六
	北相馬村	十二月九日	一七
	高野村	十二月九日	一〇
	高野村	十二月九日	一〇
	文間村	十二月十二日	一六

### 優良町村視察

久慈郡黒澤村では統計模範村視察を企劃し二月十日主任書記益子民之允氏外調査員六名が自動車を驅つて早朝出

發、縣下の優良村たる久慈郡賀美村及小里村の統計事務を視察してそれから縣廳を訪問、廳内を參觀し歸村した(口繪寫眞参照)  
新治郡九重村統計調査員宮本忠輔氏

外十二名は三月九日山中村長狩谷主任引率にて優良村視察の途次縣廳統計課を來訪、川崎課長より一場の挨拶ありて後、統計事務の狀況計算機の實演を見學、廳内一巡の上那珂郡佐野村の統計事務を視察し(口繪寫眞参照)



## 米生産統計に就て 辛酸を嘗めた私の体験

賀美村統計主任 助川 國勝

昭和八年米生産統計改正實施以來三年を過した。乍然此の米生産統計は複雑多岐に涉り調査前後の苦心は實に取扱者でなくして嘗めさせられないことだ、調査主任とし、調査員とし、晝夜兼行十日あまりの辛酸である。某曰く

険しい人生の旅をつゞける我等に先づ味はなければならぬことは勤勞を樂しむまで心に成長させることだと。どうしたら勤勞が樂しみとなる迄に心が成長するか、現代の物質主義の惡弊に染まつた人々には自分のほんとうの生活は勤務時間以外にあるやうに考へてゐる。だから仕事は止むを得ずやるので少しも樂しみではない、早く仕事

が終へて自由に享樂する時間をもてた時、こゝに自分のほんたうの生きがひのある生活が味はへたと云ふ考へ方である、これではいつも仕事は苦痛であり職業は苦痛の種となるばかりである。銘々の勤勞と云ふものは自分が生きてゆく手段であるのみならず、世の中を生かすものだと考へる、又仕事に勤勞することは、いや／＼乍らの義務や苦しい勞役ではなく研究、工夫をしてその仕事に新機軸を出さうとする努力ならば、そこから勤勞を樂しむとする境地への到達ができる。

申すに及ばず町村勤務者の如き薄給

にして物質主義にのみ染まつたら完全なる結果は見られない、どんなつまらない事と思つてなす場合でも、その事が他人にどんな影響を與へるか十分に考慮して、もし自分のやる事が他人に對して何らの害悪をも與へず、むしろ利益を興へるものであることを知つたならば全力を盡して努力すべきである、獅子は小さな兎をとるにさへその全力を用ひると云ふ。

○ 統計事業に就ても調査の集成と利用に興味を持ち、之が經過と結果を研究し、理由づけることにより、よそ人の嫌ふ事務に愉快さを感じるのだ、私共は常にかうした考の下に此の面倒な事務に當つてゐる。

○ 就中米生産統計は調査區見取圖記號の方法に依つて夫々の取扱をなすべき原則たるは申迄もない。唯か本縣の如きは耕地圖並調査原簿の適確なる縣とし、即ち本則實施の結果之に依る調

査方法と茨城縣に於て制定の調査方法を併用し耕地圖並調査原簿を利用調査せらるゝことを認められており、本村亦斯の如き方法を以て實施しつゝある。

然れとも之が調査の適正を圖らんにハ調査員の訓練と、こまごまと出来る丈けの手續を掛け(調査前の打合せをなすこと並に數回に涉り調査員の検査

をなす等)することに依り初めて、すこしのためらう事のない統計が出来たものと思ふ。

本調査は年一回にして、しかも前述の如き複雑なる取扱をなさねばならぬ多數の調査員中には調査方法を失念せるものがないとも限らない、仍て私は昭和八年以來の實際辛酸を嘗めさせられた體驗により取扱の判り易きを主と

し會議事項の外、米産統計執務順序と取扱方法を記載したるものを各用紙の上部に添付し、此の用紙は如何なる順序に如何なる方法に依り取扱はるべきかを説明し調査員の便を圖つておる。賢明なる讀者諸彦へ他によりよき方法を豊富にお持ち遊ばさば何分の御指導を仰ぎたい。

寄贈圖書

臺中州 臺中州産業狀況 重要生産月報(十一月號) 商工大臣官房統計課 佐賀縣統計書第一編第三編 佐賀縣 昭和十年國勢調査速報 佐賀縣 佐賀縣製作速報 佐賀縣 市町村生産高調査 和歌山縣統計課 卸賣物價月報 商工大臣官房統計課 職業紹介公報 中央職業紹介事務局 賃銀統計月報(十二月號) 商工大臣官房統計課

朝鮮總督府 調查月報(一月) 昭和九年鐵道省年報 鐵道省 鐵道統計資料 全上 新資料月報 内閣統計局 和歌山縣勢 和歌山縣統計協會 學事統計要覽 愛媛縣 昭和十年國勢調査結果 宮城縣 大原社會問題研究所雜誌 大原社會問題研究所 浪華の鏡 大阪府統計協會 統計(二月號) 千葉縣統計協會 賃銀物價統計月報 内閣統計局



短歌

丹 四郎選

「梅」 「冬雜詠」

賞

北相馬郡高野村 倉持 公太郎 曇り日のけ寒き風にあふられてまばらに白し林の梅は 冬ふかくつゞく日和ぞ庭樹々の葉におく埃あらはに見えて 筑波郡谷田部町 飯村 筑風 雪を見ぬ南國に來つれば冬ながら蟹葉仙人掌の花咲けるなり 久慈郡小里村 沼田 松風 吹き狂ふ風にもゆるく梅ヶ枝にいまだ乏しき花白う見ゆ 新治郡藤澤村 愛村 耕夫 かけ暗き蠟燭の灯に寄りにつゝ吹雪の夜をし寝ねがてに居つ さしなみのとなりの梅の咲き満つるにほひたたよふわが部屋 鹿島郡中野村 大川 貞一 けまで たまの風邪ひきこやる枕べに冬日あかるくさし入りにけ 早春の風まだ寒き崖下の日向の梅ははやふみつゝ

木内 紅楓

西茨城郡岩間町 松崎 錦園 渡し船呼ぶ人の息白う見ゆ川風寒き大霜の朝 猿島郡幸島村 小倉 白雨 吾妹子が生けし梅ヶ枝見つゝあれば吾子を叱りしころ和ま 北相馬郡東文間村 堀 越宵雪 吹く風の肌にしむる今宵かも空の氣配の雪となるらし 行方郡武田村 境 勇

しだれ梅の老木の花のちらほらと咲きし紅の色鮮けき 中山 隆雄 忘れ居し竹山ぬちの梅の木の大大きくふみ居にけり 筑波郡大穂村 寶泉居 梅羽 けふ父に叱られにける寂しさに土間にしみじみ繩なひにけり 結城郡西豊田村 豊國 館 大寒に咲きにし梅の花男々し人の力もかくありぬべし 鹿島郡諏訪村 石崎 勘次郎 (選舉)

國の爲め儘す心に曇りなく正しき選舉われは果さむ 北相馬郡坂手村 染谷 清春 筆の跡悪しくも情き一票は政治浄化の行使なりけり 稲敷郡生板村 大野 芳雄 (舊和歌) たへまなく細谷川の鴨の聲氷らぬ瀬をやさかすなるらむ 新治郡關川村 小松崎 琴月 (舊和歌) 烈公の史蹟語るや水戸の梅幾千代までも香りぬるかな

停電の月夜明るき外の雪のけ寒きかげを踏みて戻れる

四 郎

次回「春雑詠」「野原」

宛名 茨城縣廳内統計協會  
縮切 四月二十日



前田 猶 春選

題「茶の花」「春濤」

○	茶の花の散るともなしに花の敷	西茨城郡西山内村	森	武夫	
○	茶の花や日向に遊ぶ鶏のむれ	同岩間町	松崎	錦園	
○	春近き水の流れとなりけり	稲敷郡君原村	大越	馨	
○	なんとなくうれしき夜なり	那珂郡隆郷村	青木	青風	
○	縫ひ上げてたむ羽織や	同	高部	吞風子	
○	茶の花や夕風冷ゆる	西茨城郡大原村	島田	甍生子	
○	茶の花を活けて客まつ座敷	那珂郡佐野村	飛田	丑五郎	
○	春近し水の底にも芽ぐむもの	行方郡武田村	鳥次	ゆた香	
○	卓上の塵のゆゝしき	北相馬郡東文間村	古琅庵	宵雪	
○	春を待つ新妻芋を洗ひけり	同	坂手村	長塚	秋穂生
○	草踏めば春近き土の匂ふなり	稲敷郡君原村	湖南	霞翠	
○	茶の花に夕日寂しや	鹿島郡中野村	大川	貞	

五八

筑波郡大穂村

寶泉居 梅羽

○ 茶の花に冷たき雨の降る日かな

猿島郡幸島村

小倉 白雨

○ 軍馬の尾花茶にふれて通りけり

西茨城郡大原村

來栖 浩太郎

○ 釣上げし魚の光りや

春隣

増子 よし女

○ 胡粉濃き湯殿の額や

新治郡五會村

大高 静香

○ 茶の花や遙かに見ゆる野良の人

水戸市袴塚町

高野 杉村子

○ 春近き陽の射しにけり

窓障子

倉持 公太郎

○ 茶の花にうすれ日さむき

鶏舎かな

岡山 北星

○ 潮鳴りの響ゆるやかに

春隣

友部 光明

○ 霜除けの藁の崩れや

春隣

大越 疏水

○ 雨の音春近き夜のぬくと

さよ

關野 玄月

○ 春隣種子のカタログ着きにけり

筑波郡久賀村

關野 玄月

次の課題

題「柳」「春の風」通じて十句迄

締切 昭和十一年四月二十五日限

宛名 茨城縣廳内 茨城統計協會

秀逸に粗賞を呈す



柳川

山中 緋郎選

落選をしてから候補風邪を引き  
東京市淺草區 上竹 梢聲

棄權しちやならない譯を女房言ひ  
北相馬郡坂手村 長塚 秋穂

肅正へちと棄權率多すぎる  
北相馬郡東文間村 宵雪 迂人

候補者は選挙にだけは好いお世辭  
水戸市 大高 静香

片假名で書き一票の義務が濟み  
神戸市湊區 小西 樂人

賞

春まつや干せば香ばしる酒袋  
北相馬郡高野村 倉持 公太郎

五九

鹿島郡豊郷村 林 喜平  
落選の夢に候補はうなされる

大阪府泉北郡 木本 水星  
蕭選に花街の夜の静かなり

東京市目黒區 雉野 鳴風  
蕭正を選舉ブローカーのろつて居

〔十 秀〕

横濱市中區 高橋 十六夜  
無産黨相當派手なスローガン

埼玉縣大宮町 小島 素朗雁  
選舉場反對黨の腫と腫と腫

京城府黃金町 小島 大口坊  
總選舉自動車屋だけ儲けて居

東京市王子區 熊谷 白雨  
候補者は頭の高さなど云はれ

名古屋市西區 荻 誠二  
立候補又興敗の車を打ち

國館市松風町 轟 三平  
蕭正のマーク役所はちと儲け

東京市王子區 日野 櫻笑子  
當選の議員へどつと来る 睡魔

行方郡武田村 鳥次 とり坊  
心配は落選よりも保證金

神奈川縣鎌倉郡 根本 劍人  
總選舉妻の意見も聞いておき

東京市王子區 村上 亘亨  
蕭正を破る選舉の字がふるへ

〔五 客〕

東京市江戸川區 山屋 西三  
選舉場無學は恐いものに見る

東京市王子區 田村 双葉  
選舉事務暑いでもなし炭が消え

宮城縣志田郡 大友 柳步  
蕭正は選舉ばかりぢやないと妻

愛知縣中島郡 長坂 霞外  
總選舉明るく濟んで雪が鮮け

東京市淺草區 中村 鐵兜  
蕭正の聲におびえる村外れ

〔人〕

西茨城郡穴戸町 友部 光明  
蕭正へ棄權氣づかふ病める父

〔地〕

東京市本郷區 鈴木 參良  
法定の費用に合はず難し

〔天〕

東京市神田區 齋藤 ふじ若  
蕭正を入れてラデオも總選舉

○ 年賀状思ひ出させる選舉が來 緋 郎

次號課題 『視 察』

締切 四月二十日 葉書一人五句以内  
宛名 茨城縣廳内統計協會  
賞 三才粗品を呈す

寄 贈 圖 書

- 第四十七回統計報告 内務大臣官房文書課
- 統計集誌總目錄 東京統計協會
- 統計界(二月號) 岩手縣統計協會
- 長野縣統計書第六編 長野縣
- 長野縣ノ生産 全 野 上
- 二豊の統計(創刊號) 大分縣統計協會
- 麥統計 長野縣
- 兵庫統計(二月號) 兵庫縣統計協會
- 會社一覽 樺太廳調査課
- 南洋廳統計年鑑 南洋 廳
- いしず(二月號) 福岡縣統計協會
- 米生産一覽 德 島 縣
- 養蠶一覽 全 上
- 北海道統計(二月號) 北海道統計協會

投 稿 歡 迎

- 一、種類に制限ありません(論説、所感、體驗實記、質疑、文藝其の他)奮つて投稿されたい佳作には賞品を呈します。
- 一、用紙は成るべく原稿紙とし文字は明瞭に書かれない。
- 一、原稿には住所氏名を明記すること。(但し誌上の匿名は差支ありません)
- 一、原稿の取捨採否は編輯部に一任されたい。
- 一、五月號は四月二十日迄に送付のこと。
- 一、原稿は一切返送しません。
- 一、宛名は「茨城縣廳統計課内茨城縣統計協會編輯部」宛のこと。

# 本誌廣告料 値下斷行

## 大に利用せよ

『茨城統計』は創刊以來一年有餘、特異なる編輯を以て讀者諸君に見え、號を重ねるに隨つて益々發行部數を増し數多ある機關雜誌中斷然群を抜き、縣内は勿論、中央に於ても相當認めらるゝに至りましたことは編輯部同人の欣快とする處であります。

而して我が『茨城統計』は元より營利を目的とするものではありません、收支相償ふことによつて、以て初期の目的に副ふことが出來ますれば結構なことでありますので、今回廣告料金の値下げを斷行致しました。

即ち改正の本誌廣告料金は左の通りでありまして、徹底的の値下げであります。

ます、之れ本誌が營利的刊行物にあらざる事を證據立てるものであります。希くはドン／＼御利用あらんことを。

### ◆特別

一頁表紙 金貳拾圓なり 金拾五圓に變更

半頁同 金拾五圓を 金八圓に

### ◆普通

一頁 金拾圓を 金八圓に

半頁 金五圓を 金四圓に

四分ノ一金 參圓を 金貳圓に

▼同一廣告を引續き二回以上のときは

一割五分、五回以上のときは二割の割引をします。

▼廣告に寫眞挿入又は木版を要するものは其の費用を別に申受けます。

▼廣告料は前納に願ひます。

茨城縣廳

茨城縣統計協會

編輯後記

一月末から二月下旬へかけて總選舉。その選舉が濟んで、やれ／＼と思ふ間もなく突發したのがあの二月事件、晴天の霹靂とは全くこのことであつた。

そんなこんな一月から二月、更にこの三月へかけて、我等は眞に千載一遇の深刻な場面に直面し、大いに考へさせられるものがあつた。慌ぢず、動かず、中心を失はず日本人固有の精神を振り興して此の非常時に處さねばならぬ。

本誌讀者諸君の投稿、短歌、俳句、川柳は每號數百の多きに達し、選者の方々を驚かしてゐるが、その他の投稿はあまり出ない、願くは諸君の思ひつき、目に見たもの、耳に聴いたもの、何んでも結構ゆる／＼投稿されたい。——富岡如夢——

昭和十一年三月十三日印刷  
昭和十一年三月十五日發行

（隔月一回十五日發行）  
一部金十錢

水戸市北三ノ丸茨城縣廳

茨城縣統計協會内

發行兼 川崎 末吉

編輯人 水戸市南三ノ丸一〇七ノ二

印刷人 柴 博

水戸市南三ノ丸一〇七ノ二

印刷所 柴 印刷所

水戸市北三ノ丸 茨城縣廳内

發行所 茨城縣統計協會